

平成29年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自己と他者を大切にできる豊かな感性を持った生徒を育成し、確かな学力を身につけ、自己実現・社会貢献できる人材を育む学校

- 1 豊かな人間関係が形成できる力を持つ人権感覚に富んだ生徒を育てる
- 2 学ぶ楽しさを実感することで基礎学力を有した「社会を生き抜く力」を育てる
- 3 「働くことの意欲」を醸成し、自己の進路を主体的に選択できる力を育てる

2 中期的目標

- 1 安全で安心な学校生活を送れる学校づくり（豊かな人間関係が形成できる力を持つ人権感覚に富んだ生徒を育成）
 - (1) 生徒相互にとって安全で安心して生活できる場の醸成《人間関係の育成、施設等を含む学校環境整備》
 - ア 基本的なコミュニケーションの取り方を体験的な学習・行事等を通じ育成
 - イ 事故防止、大規模災害時初期対応及び緊急事態発生時の円滑な対応《施設老朽化への対応》
 - (2) 基本的な生活習慣の確立
 - ア 基本的な生活習慣の確立のため生徒・保護者・教職員との連携
 - イ 生涯にわたり生徒が自己の健康管理の大切さを習得できるよう理解・啓発
 - (3) 規範意識の醸成と個々の生徒のニーズに応じた支援体制
 - ア 「規範意識の醸成」に努めるため、授業規律の確立と遵守を徹底し、学びの習慣の大切さに気づかせる
 - イ 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行を踏まえ、合理的配慮に関する理解を深め、すべての生徒への支援
 - ウ 教育相談体制および校内研修の充実《校内体制の組織づくり》
- 2 エンパワメントスクール【ES】への改編を踏まえ、すべての生徒に『基礎学力・考えるチカラ・生き抜くチカラ』を育む
 - (1) 「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践
 - ア 「わかる授業」を大切にし、生徒が「できた。わかった。もっとできる」が感じられる授業の研究と実践
 - イ 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」などの有効活用
 - (2) 公開授業の活用
 - ア 公開授業週間を活用し、研究授業の充実を図る《教員相互の授業研究協議の充実》
 - イ 様々な授業手法について研鑽に努める。
 - (3) モジュール授業やエンパワメントタイムの教材の研究と情報発信の強化《リーフレット・クリアファイル等の広報媒体の活用》
 - ア ESに改編された高校のモジュール授業等の教材の精査を行い、本校に応じた教材の準備
 - イ 先駆的に取り組んでいる学校の見学を行い、教材研究に生かす
- 3 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実（「働くことの意義」を醸成し、自己の進路を主体的に決定する力を育てる）
 - (1) 生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化
 - ア 体育祭や文化祭などを生徒の自主的活動になるよう生徒会・実行委員会を中心に運営する
 - イ ボランティアや地域との連携を図る活動の充実（はつがの祭りへのSL運行などボランティア）
 - ウ 部活動への参加を促進するため活動状況等のWebページ掲載
 - (2) 3年間を見通したキャリア教育の推進
 - ア 職業観・勤労観を養い将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけを推進
 - イ 教科学習を基本に「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」体験的な行事など、あらゆる教育活動を生徒の自己発見に繋げる
 - ウ 思考力・判断力・表現力を育み『コミュニケーション力・キャリア意識』促す情報編集力を育成
 - エ 進路希望調査を実施し、進路希望に応じた豊富で適切な情報を提供するとともに、適正検査等を利用し、自己の適性や能力を発見させるよう努める（進路未決定率 平成28年度 13% → 平成29年度 8%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>学校全体の欠席数が約2000日減少した。その結果として、体育祭や文化祭の準備段階の活気から伺える。さらに学校協議会委員からの評価も良かった。しかし、自己診断の評価に反映されていない項目が多いと感じている。その現われは、回答数の少なさである。</p> <p>生徒をみると、年次進行で肯定感や充実度があがっていく傾向が見受けられる。また、保護者の回答数が「H28 30.7%からH29 15.1%」と半減した結果を今後の学校運営に活かしていきたい。同様に生徒の回答も減少していることも非常に残念である。</p> <p>教員は学校の課題解決を図るため「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」が71.5%と増加。今後のエンパワメントスクールの取組みに期待できる。「教育活動全般にわたる評価を行い、次年に生かしている」は61.6%(7.6%アップ)と向上。ついては、生徒のニーズを上手くカタチにして満足度向上に繋げ、実感させることが出来れば、学校全体の満足度や楽しさに反映されると考えている。</p>	<p>第1回：平成29年7月22日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30年度改編のエンパワメントスクール説明時、教務部から生徒のニーズに応え「くらしと保育」系列の定員増の説明。進路指導部、生徒指導部からも現状の報告があった。今まで以上に生活習慣確立（遅刻指導等）、体験的行事を含め生徒がより学校へ行きたいという意欲の醸成を期待したい。 <p>第2回：平成29年11月10日（金）-文化祭の生徒の取組み見学-</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭の取組みは昨年以上の活気を感じられ、生徒の行動力に変化が見られる。3年間を経てエンパワメントスクールに移行するが、伝統をさらに積重ねて、地域と共に発展は必要であり、地域・小中等との連携を大局に判断して、実行してもらいたい。 <p>第3回：平成30年2月3日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の内容について 文化祭、体育祭等の行事内容を精選し、生徒・保護者・教職員が楽しめる取組みの工夫が必要。また、校舎等の施設の老朽化は、約45%が不満との回答ありで、今後の検討課題。 ・校則の見直しなど…一定の基準は必要で、保護者も含め説明を丁寧に実施することが大切。信頼関係を大事にすることや「地毛」は、特に人権に配慮してもらいたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 安全で安心な学校生活を送れる学校づくり	(1)安全で安心して生活できる場の醸成 ア 基本的なコミュニケーション イ 事故防止、大規模災害時初期対応及び緊急事態発生時 (2)基本的な生活習慣の確立 ア 基本的な生活習慣の確立 イ 自己の健康管理 (3)規範意識醸成と個々の生徒への支援体制 ア 合理的配慮に関する理解 イ 授業に規律の確立と遵守を徹底 ウ 教育相談の取組と校内研修	(1)学校が生徒相互にとって安全で安心な生活できる場と人間関係の育成・施設の改善 ア・「総合的な学習の時間」、「産業社会と人間」など時間を活用し、コミュニケーションの取り方を体験的な学習・行事等を通じ育成 イ・緊急事態発生時の連絡体制の確認と徹底 ・生徒の参加による安全衛生講習会の実施 (2) 基本的な生活習慣の確立 ア・基本的な「あいさつ運動」の定着 イ・健康診断で要受診者の受診率を向上させる (3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制 ア・「授業定着」「規範意識の醸成」をめざして教職員と生徒・保護者の信頼関係を構築する ・生活指導に課題を抱える生徒に対しては、保護者懇談、家庭訪問などにより保護者と連携を深め、寄り添い、粘り強く指導する。 イ・合理的配慮に関する校内研修を実施し、「ともに学び、ともに育つ」教育の推進を深める。 ウ・教育相談委員会とスクールカウンセラーの連携をさらに深め、校内研修の充実	(1)安全で安心して生活できる場・老朽施設の改善 ア・人間関係トレーニングなどを各学期に実施 イ・救急連絡体制の確認3回 ・AED講習会の生徒参加40人(H28年度 30人) (2)基本的な生活習慣の確立 ア・校内でのあいさつ運動を毎日実施(H28年度 150日) イ・受診率の5%向上(H28年度 4.85%で28人) (3)規範意識醸成と個々の生徒への支援体制の強化 ア・懲戒件数の5%割減少(H28年度 152件) ・のべ欠席日数の5%減少(H28年度 11200日) イ合理的配慮に関する校内研修2回実施(新規) ウ・ケース会議を年4回実施(H28年度4回)校内研修年2回実施	(1)老朽施設の改修として、テニスコート改修、エンパワメントスクールへの教室扉、電子黒板、廊下のLED化等の改修(◎) ア)エゴグラム、SSTなど実施(○) イ)緊急連絡体制確認3回(○) AED講習会の生徒参加20人(△) PTA対象のAED講習会実施(○) (2)基本的な生活習慣の確立 ア)あいさつ運動の拡大。廊下での呼びかけ等を追加(H29年度 150日)(○) イ)受診率の5%向上(△) 未受診者の微減(H29年度4.72%で27人) (3)規範意識と個々の生徒への支援体制 ア)懲戒件数ほぼ5%減少(H29年度 148件)(△) ・のべ欠席日数が19.6%減少(◎) 2198日の減少(H29年度 9002日) イ)合理的配慮に関する校内研修4回実施(◎) ウ)ケース会議を年4回実施(H29 4回)人権、SSW、支援研修等を3回実施(○)
2 エンパワメントスクール【ES】改編・基礎学力育成	(1)「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践 ア「できた。わかった。もっとできる」が感じられる授業研究、実践 イ少人数クラス (2)公開授業の活用 ア 公開授業週間活用 イ 様々な授業手法について研鑽 (3)モジュール授業等 ア利用可能な教材 イ先駆的な学校見学	(1)「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践 ア・エンパワメントスクールへ対応した研究授業 イ・1年次の9クラスに展開し、担任と生徒との信頼関係の構築。生徒の生活背景の状況把握、授業担当者との連携を深める (2)公開授業の活用 ア・教員相互が授業に関する意見交換を行う イ・授業見学を実施しICTの活用を研究する (3)モジュール授業等の教材の精査 ア・先駆的な教材の本校での活用方法を検討し、新たな授業方法の実践方法を模索する イ・学校生活に課題を抱える生徒が多く、新たな学校の取組を学ぶため、学校見学を実施する。	(1)「魅力ある授業」の創造と実践 ア・研究授業5回実施 イ・1年次の中退率の5%減少(H28年度 50人) (2)公開授業の活用 ア・生徒授業満足度5%増 イ・視聴覚教材を活用した授業見学を実施 (3)モジュール授業等の教材の精査 ア・教材を活用した授業を行い、検討会の実施2回(新規) イ・学校見学を行う教員5人(昨年他府県2人)	(1)「魅力ある授業」の実践 ア)研究授業5回実施(○) イ)1年次の中退率の18%増加(△)(H30.3.30 *59人) *高等学校等学び直し支援金受給の為の退学者33人を含む (2)公開授業の活用 ア)生徒授業満足度2.4%減(△) イ)電子黒板を活用した授業見学(○) (3)モジュール授業等の教材の精査 ア・教材を活用した授業(△) 検討会の実施2回(○) イ・学校見学を行う教員9人(他府県への視察者9人)(◎)
3 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実	(1)生徒会活動・部活動 地域貢献の活性化 ア 生徒の自主的活動 イ ボランティア活動の充実 ウ 部活動への参加 (2)3年間を見通したキャリア教育の推進 ア職業観・勤労観 イ生徒自身の自己発見の機会 ウ コミュニケーション力・キャリア意識を促す情報編集力 エ 進路アンケート	(1)生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化 ア・体育祭・文化祭の生徒会役員の当日の運営や準備期間で、教員と協力しながら活躍の機会を増やす イ・エンパワメントスクール系列を活用した地域貢献 ウ・生徒会と協力し、クラブ紹介や体験入部に取組む (2)3年間を見通したキャリア教育の推進 ア・地元企業と協力し、インターンシップに取り組む イ・外部講師によるガイダンスや講演を活用し自己の進路に対する啓発を行う ・資格取得への参加を促し、進路に向けた動機付けを行う ウ・コミュニケーション力・キャリア意識を促す情報編集力の育成 エ・場面に応じた適切な言葉を選択できるよう寄り添い、粘り強く指導を行う。 ・進路アンケートを実施する	(1)生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化 ア・学校教育自己診断の項目5%増 イ・ミニSLの運行2回 ウ・クラブ加入率を20%に上昇させる。(H28年度 18%) (2)3年間を見通したキャリア教育の推進 ア・インターンシップ参加者3人(H28年度 1人) イ・学校斡旋による就職希望者5%増 ・資格取得者10%増(H28 11人) ウ・コミュニケーション力の養成 エ・3年生の就職面接練習参加者1割増(H28年度 74人)	(1)生徒会活動・部活動・地域貢献の活性化 ア・学校教育自己診断の項目生徒会5.3%増(○)、部活動4%増、地域2.6%増(△) イ・ミニSLの運行1回(○) 1回は台風により中止 ウ・クラブ加入率は14%にさがった(H29年度 14%)(△) 学校教育自己診断で保護者は、部活動を活発だと考える…約30%増加した (2)3年間を見通したキャリア教育の推進 ア)インターンシップ参加者0人(H29 0人)(△) イ)学校斡旋による就職希望者5%増(○) H28年度64人→(H29年度74人)(○) 資格取得者10%増(◎)(H29年度23人) ウ)コミュニケーション力の養成 硬式テニス部、ダンス部、軽音楽部など 地域・校内での活動や発表(○) エ・3年生の就職面接練習参加者1割増(H29年度 80人)(○)